

《第 48 号》「音楽と環境」

坂下 誠(下町ケーナ同好会会長)

南米アンデス地方の音楽、フォルクローレを演奏する「下町ケーナ同好会」を立ち上げて 16 年になりました。ケーナとは「コンドルは飛んでいく」で有名になったアンデス地方特有の縦笛です。ケーナが好き、フォルクローレが好き、音楽を一緒に楽しみたいねという仲間が集まってスタートした同好会ですが、現在 18 名の会員が毎週金曜日の夜、上野に集まって練習しています。結成後は病院や老人ホーム、公共施設などからお声がかかり、年間 20~30 回ほどの演奏活動をしています。演奏活動を通して、フォルクローレのふるさとの歴史、文化、環境なども少しずつ知るようになりました。

フォルクローレが生まれた国・地域は、経済的にも物質的にも決して豊かではありません。経済的に恵まれない国々への援助は先進国の当然の義務ですが、それらの人々が自立していくためには、小さい時からの「教育」が不可欠です。しかし教育を受けたくてもその「場」が十分でない国は多く、南米ボリビアもその 1 つです。日本の NPO「学び舎づくりの会」は、教育の場がないボリビアの村に技術者を派遣し、その土地の土を使ってレンガを作り、そのレンガを積み上げ、地元の素材を使って建物をつくっています。レンガを作り建物を作るのはその村人で、働く人は賃金と技術を得ることができます。出来上がった建物は地域の人たちにより管理・運営され、子どもたちに教育を施す場として、また村民のコミュニティの場として有効に使われます。先進国といわれる日本でフォルクローレの演奏活動をしている私たちが、そのふるさとに何か恩返しができないかと考え、僅かですが毎年の演奏活動やイベント活動で得たお金を、この NPO に寄付しています。

多くのものを不自由なく消費し続けている日常の中で、多様な音楽を育むアンデスの人々の生活に思いを馳せるとき、豊かさとは何なのかを考えずにはられません。

以上